



## みんなの石沢登校日① 学校開放のご案内

閉校年度の今年、PTA会員以外の方々にも学校を訪れてほしいという意味をこめて、「みんなの石沢登校日」を設けました。閉校式や文化祭、運動会などがそれにあたります。第1回目は、お盆中の学校開放です。感染症予防の関係上、制約はありますが、ぜひお立ち寄りください。

- |        |  |
|--------|--|
| 1 期 日  | 8月14日(金)・15日(土)  |
| 2 時間 帯 | 9:00~16:00   |
| 3 留意事項 | ① 教室を使用した同級会等、集団での飲食はできません。<br>② 新型コロナウイルス感染症予防に配慮してください。 <ul style="list-style-type: none"><li>・熱があるなど、体調不良の方はご遠慮ください。</li><li>・マスクの着用、手指消毒、体温測定をお願いします。</li><li>・玄関には体温計、玄関と展示物がある場所には消毒液を準備しています。</li></ul> |
| 4 その他  | ① 夏休み中、他の期日も来校可能ですが、学校閉鎖やワックスがけ等都合の悪い日もあるので、電話にてお確かめください。<br>② メッセージを書ける物を用意していますので、よろしかったら一言お願いします。記念誌にその一部を反映させる予定です。  |



### 石沢小なつかしの写真⑨「クリーンナップ」

1978年(昭和53)、県教委「福祉の心」教育推進指定校となったことがきっかけで、昭和55年には「ノーポイ運動」が始まりました。

当時は、ポイ捨てるドライバーもたくさんいたのでしょう。下校時のクリーンナップの様子です。

通学路をきれいにする活動ですが、今年こそは実施していないものの、昨年度まで愛校日に行っていました。40年間も続いているなんて、すばらしいことではありませんか。引き継がれた教育活動がたくさんある石沢小学校です。

### 名古屋より ご寄付届く

2年前、自分の苗字と同じ学校があることを知り、メールをくださった方がいました。石沢\*\*さんという\*\*\*在住の方です。このたび石沢さんから、ご寄付を頂戴いたしました。その額なんと3万円。出身は岩手県、お父さんが秋田大学卒ということで、身近に感じてくださったのかもしれませんが、それにしても驚きの応援です。教頭がさっそくお礼の返信をしました。石沢さんのお話では、「青森県の石沢小学校もなくなり、全国唯一残った校名だった」とのことでした。また、ホームページもご覧になっているようで、励ましの言葉もいただきました。ありがたいことです。

# 石沢小学校の歴史

1874年（明治7）3月17日、館に「石沢学校」が創立。以来、何度か名称が変わるが、今年度で創立147年目を迎える。

「147年目の児童数47名」

となった。

## 石沢小の校舎

1928年（昭和3）、現在地に木造校舎が建てられた。そのたまたまはすばらしく、航空写真からもよく伝わってくる。

1987年（昭和62）5月、旧校舎から新校舎へ引っ越し作業が行われ、入校式を挙行。9月3日には、盛大に竣工式が行われた。



小番宜一 本荘市長の書

教室の壁を取り払い、ワーク・スペースと一体となった空間が特徴の新校舎である。ドライシステムを取り入れた調理室と、児童が一堂に会して食事のできる食堂もできた。

## 石沢小の児童数

右のグラフは、石沢小学校の児童数の推移である。ピークは、昭和33年の705名、戦前にも700名を超えていた年があるが、尋常小学校高等科（中2の年齢まで）も含めた人数なので昭和33年が一番多い。

同年の学校沿革誌には、教室が足りなくなったので、「本荘高校定時制に貸していた教室のうち、1教室が返還される。」という記載が残っている。

山内分校も、昭和27年には36名在籍し、昭和30年からは5・6年生が本校に通うようになる。（昭和42年3月廃校）

児童数は、昭和50年から200名を割る。平成17年がちょうど100名。以降、児童数は2桁となり、現在に至る。



**日住衝天**

山々に緑滴り 清流の進る  
 豊穰の地 石沢の里に  
 待望の学舎が いま新しく生まれた  
 あかねさす 日住の峰は天を衝き  
 陽が昇り 月が還る場所だ  
 この平野の何処からでも  
 仰ぎ見ることが出来る故に  
 本荘一ノ宮が祀られているのだろう

昭和六十二年九月三日  
 本荘市長 小番宜一

その麓で君たちは学ぶのだ  
 願わくば 故郷のために  
 否 人類の前途のために  
 有為な人となり給え

日住の峰が 九沢の流れの源を抱く如く  
 天を衝き 地を掩うことを希い  
 ここに礎を定めます。